

第174回

岩手朝日テレビ放送番組審議会

議 事 録

(平成26年1月)

2014.1.30

株式会社 岩手朝日テレビ

## 第174回 放送番組審議会議事録

1. 開催日時 平成26年 1月30日 (木) 午後4時～
2. 開催場所 ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング「桂の間」
3. 委員の出席

委員総数 7名

出席委員数 7名

委員 長	村 田 久
委員	そのだ つくし
委員	田 口 幸 雄
委員	大見山 俊 雄
委員	畠 山 さゆり
委員	小 松 豊
委員	菊 池 勝

### 会社側出席者名

代表取締役社長	富 永 健 治
専務取締役	辻 一 成
取 締 役	長 生 正 広
報道制作局長	佐々木 貴
報道制作部長	伊 波 伴 准
番組ディレクター	古 馬 正 人
編成業務局長兼放送番組審議会事務局長	柏 葉 智
番組審議会事務局	佐 野 尚

#### 4. 議 題

(1) 合評番組

「ふるさとCM大賞 in IWATE 2013」

放送日時：平成25年12月28日(土) 午後4時30分～5時25分

(2) 2月単発番組及び1月の視聴率について

(3) 次回審議会

開催日：平成26年2月27日(木) 午前11時～  
岩手朝日テレビ 3F大会議室

合評課題：「スーパーJチャンネルいわて」

放送日時：2月6日(木) 午後6時15分～午後6時55分

#### 5. 概 要

- \* 柏葉事務局長より2月の単発番組と1月の視聴率の内容が発表された。
- \* 合評課題は「ふるさとCM大賞 in IWATE 2013」。
- \* 放送が11回目と継続して実施している表れとして、年々CM制作のレベルが上がっている。
- \* 非常にほのぼのとしていて、テンポも良く、視聴者を飽きさせない内容だった。CM制作のメイキングの映像が豊富で、番組に厚みが出ていた。
- \* 今回からふるさとCM大賞の司会者が変わった事について、「表情に硬さがみられた」「もう少し出演者の話を引き出して、会場を盛り上げて欲しかった」という意見があった。

## 6. 議事の内容

- 柏葉事務局長) 本日もお忙しい中、お集まり頂きありがとうございます。  
只今より、第 174 回 岩手朝日テレビ放送番組審議会を始め  
ます。本日は合評課題番組におきまして、報道制作局 佐々  
木局長、伊波部長と番組担当の古馬ディレクターが出席して  
おります。後ほど合評の際は宜しくお願いいたします。  
それでは村田委員長、議事をお願いいたします。
- 村田委員長) 今年初めての番審です。全員参加となり、幸先のいいスタ  
ートになりました。今年もよろしく申し上げます。それでは  
富永社長、一言申し上げます。
- 富永社長) 委員長からもありましたが、今年最初の番組審議会という  
ことで、今年一年よろしく申し上げます。岩手朝日テレビは  
昨年、視聴率も売り上げも開局以来の記録更新ということで  
非常にいい年だったと思っています。今年もさらに飛躍して  
いきたいと思っています。  
間もなく震災から3年ですが、岩手朝日では引き続き震災  
の復興の役に立つような、あるいは、被災された方々の力に  
なるような番組を放送していきたいと思っています。委員の  
皆様には今まで通りいろんな意見を言っていただいて、参考  
にしながらいい番組を放送できるように頑張っていきたいと  
思います。今年も一年よろしく申し上げます。
- 村田委員長) ありがとうございます。なにかご質問・ご意見ありますか？  
それでは2月の単発番組と1月の視聴率について説明いた  
だきます。
- 柏葉事務局長) では、2月の単発番組と1月の視聴率についてお手元の資料  
によりご説明させていただきます。  
まず、2月の単発番組です。いよいよ2月7日(金)から  
23日(日)までソチオリンピックが開催されます。テレビ朝  
日系列では、8日(土)にフィギュアスケート団体、9日(日)  
にスノーボード女子スロープスタイル、13日(木)にアイス  
ホッケー女子、17日(月)にフィギュアスケートアイスダン  
ス、21日(金)にフィギュアスケート総集編をご覧の時間  
にお送りします。そして、10日(月)からはソチオリンピック  
2014 速報及びハイライトをご覧の時間に、23日(日)午後6  
時54分からソチオリンピック2014 総集編をお送りします。  
尚、開会式は7日(金)現地時間午後8時から、日本時間で

は8日(土)午前1時からNHKの放送です。(日本とソチの時差は5時間で、日本のほうが5時間進んでいます)日本チームは1998年の長野オリンピックで最多のメダル10個を獲得して以来、冬季ではそれを超えるメダルを取れていません。今回のソチオリンピックではフィギュアスケート、ジャンプなどメダル獲得の可能性を秘めている選手が多くいます。是非長野オリンピックを超えるメダルを期待したいと思います。

その他単発番組です。22日(土)午後4時から「東北ふるさとCMフェスティバル2014」をお送りします。今回で7回目の開催となる「東北ふるさとCMフェスティバル」は、東北各県のふるさとCM大賞最優秀作品を一般公開するイベントで、この番組ではその模様をお送りします。岩手からは本日の合評課題でふるさとCM大賞を獲得した盛岡市の「COME HERE MORIOKA〜0(レイ)MEN編〜」が参加します。同じく22日(土)午後9時から「山田太一ドラマスペシャル〜時は立ち止まらない〜」をお送りします。2011年3月の東日本大震災から3年。日本を代表する脚本家・山田太一氏が、その未曾有の大災害を背景に2つの家族の崩壊と再生を静かに描く感動作です。是非ご覧ください。

つづきまして、1月の視聴率についてです。ご覧のように全日8.0%、ゴールデン13.0%、プライム13.0%、プライム26.9%となり、全日は3位、ゴールデン・プライムは2位、プライム2は1位でした。

1月は御覧のように、7日(火)の「家庭の医学3時間スペシャル」が15.0%、14日(火)の「ロンドンハーツ×ジュニアと田村淳(あつし)のラブ婚&ダメ婚スペシャル」が14.3%、15日(水)は「ミラクル9」が14.6%、続く「相棒」が17.6%、「報道ステーション」が18.8%、「マツコ&有吉の怒り新党」が16.0%、10日(金)の「明石家さんまコンプレックス杯3時間スペシャル」が15.2%、11日(土)の「土曜ワイド劇場100の資格を持つ女8」が14.7%、18日(土)の「関ジャニの仕分けエイト2時間スペシャル」この日は福田こうへいのカラオケバトル参戦で21.5%、12日(日)の「日曜エンタTRICK新作スペシャル3」が15.5%、同じく19日(日)「日曜エンタ 松本清張ドラマスペシャル 黒い福音」が14.0%、と高視聴率を獲得し、ゴールデン・プライム共に2位を獲得できました。また、「1月は相棒月間」と題して、平日午後3時59分からのドラマ名作選「相棒シーズン2」が平均11.0%と高視聴率となり、ゴールデン・プライムと合わせて全日視聴率を押し上げ8.0%と高い数字ではありましたが、民放3位という結果でした。

2月の単発と1月の視聴率については以上でございます。

- 村田委員長) ありがとうございます。いよいよ「ソチオリンピック」も始まりますけれども、何か単発についてご意見、視聴率に関して何かありますか？質問なり意見なり。視聴率の第一位はテレビ岩手ですか？
- 柏葉事務局長) はい、そうです。
- 村田委員長) I A Tは健闘していますね。
- 田口委員) テレビ岩手は何が良かったのでしょうか。
- 柏葉事務局長) テレビ岩手は非常に万遍なく取れています。朝帯の「Z I P」に関しては、民放では視聴率は「めざまし」が良いのですが、それに続いて大体8~9.0%は取れているのと、午後帯ですと午後1時55分からの「ミヤネ屋」がベルトで9~10.0%取っていたり、ゴールデンタイムでも万遍なく取っているというところで、大きな数字であるということです。
- 村田委員長) 何か他にありますか？
- 小松委員) 「ソチオリンピック」は数字が取れそうにない、気がするのですが。
- 柏葉事務局長) いい競技はNHKが多いです。
- 村田委員長) そうですよ。若い人はいいかも知れないけれど、年取った人が観たいのがあんまりないような感じです。
- 柏葉事務局長) 「ジャンプ」「ラージヒル」「女子ノーマルヒル」「男子ラージヒル団体」はNHKですし「女子モーグル」も「開会式」「閉会式」もNHKです。フィギュアも「男子シングルスショートプログラム」も「女子シングルフリー」もNHKです。
- 村田委員長) でも、「ソチオリンピック」はどうなるか楽しみですね。他、何かございませんか。では合評に移らせていただきます。合評は「ふるさとCM大賞 in IWATE 2013」です。畠山さんからお願いします。
- 畠山委員) あけましておめでとうございます。本年もよろしく願います。見てから時間が経ってしまったのですが。ひとつは、みなさん非常に上手になられているなと感じました。2002年から始まって、10年の積み重ねは非常に大きいなど

思いました。去年と比べても、受賞した作品へのコメントは審査員の方たちが仰られていましたので、作品に対してコメントするよりも番組全体としてみると、正直な話、依然と観ているのが辛いというか、「まあこの作品の中からならこの作品に賞をあげてもいいのかな」という感じが5~6年前まではあったのですが、今年に関しては特に大賞の盛岡市に関しては映画「オーメン」と「冷麺」をかぶらせる発想力が素晴らしいし、発想力を思いつきに終わらせない構成のクオリティーが素晴らしくて、来年が心配になるほどです。

言葉として楽しむ意味では久慈市の宝くじの「久慈」「くじ」と縁起のいいのをかけて、それがまた発想で終わらせないというかユーモアやペーソスもあったりして「これ本当に素人の人が作ったのかな」というクオリティーでした。この10年で、番組に携わった方々が継続してやられた、継続は力なりという、素人ながらコツもつかんできたような気がします。会の盛り上がり方、見ごたえがあり、今年は本当にすごいなと思いました。特別賞をもらった作品はどれもそつなくて、すごいと思いました。個人的に好きなのは山田町の、鮭が「ピチピチ…」のやつとかは面白くて、みなさんがリラックスして楽しんで作っているのが画面からみられるし、それを引き出してこられたスタッフの方々の功績が非常に大きいなと思いました。あと「みゃー」もよかったし、審査員の方々も長丁場とはいえ、選ぶのが楽しかったのではないかなと思います。司会者も今年から替わったのですがフレッシュでした。今までは山本監督がどこまで元気に続けられるのかそちらもハラハラして観ていたのですが、上手に交代できた感じで。存在感もあったし、まとまっていて突っ込むところはなく、関心しました。来年のハードルが上がって新規参入の方が大変なのかなと思いました。

田口委員)

今年もよろしく願います。

司会者については去年も山本監督はどうか、という意見があったと思うのですが、司会者はマギー審司に替えてよかったなと思います。言葉にキレがありますし、畑山アナウンサーとの年代的なものというか、相性も良かったと思います。山本監督は審査員に残して大正解だったと思います。収まりが良い、いい味出しているという感じがしますし、コメントも面白おかしく言っているようで実は的を射ているという感じで良かったと思います。今回は33市町村のうち28市町村が参加ということですが、参加率はいかが

だったのでしょうか。去年の記憶はないですが。割と高いほうではないでしょうか。10年間の間ではどうですか。

柏葉委員長) 去年は27市町村でした。

田口委員) 本当は33市町村すべてが参加すればよいのですが、いろんな事情があつて難しいでしょう。全員参加するように働きかけてほしいと思います。CMの作り手について、公務員だったり高校生だったり子どもだったり。どういう依頼の仕方をしているのかなと、市町村を通しているのですか。

長生取締役) 市町村の広報にお願いしていて、あとはお任せです。

田口委員) いろんな人が作っていていいなあと感じました。たしか去年から30秒を15秒にしたということでしたが、去年はかなり苦労したという話でした。15秒で作るというのは我々もそうですが、非常に難しい。ポイントをとらえて表現するのが非常に難しい。そういったところを乗り越えていいものに仕上げているなと感心しましたし、また制作の裏話的なところも一緒に紹介していて、観る側としては楽しめた感じがしました。CMの内容について言うとプロが作るようなスマートさというか洗練さというのではないかもしれませんが素直で単純、素朴で地元らしさがいいなと思います。ただ、一部パターン化している部分も感じます。盛岡はストーリー性では大賞かな、と思いました。山本監督は「CMに一番必要なものはコピーである」と言いましたが、そういう時代ではなくなってきたのかなと思います。一つの言葉でとらえるということも確かにいいのですが、そうではないというその言葉が印象的でした。大賞をとったCMが系列の東北5局、他長崎、熊本でOAされるという特典はかなり市町村の参加者にはインセンティブに働くだらうと思います。放映されることは岩手県の宣伝にもなり非常に貴重だらうな、と。そういう意味ではありがたい企画だと思いました。

そのだ委員) 今年もよろしく願います。

現場にいた者としての意見なので、テレビを見てというよりは現場の感想になります。今回も審査員に出ささせていただきました。司会をマギーさんにして正解だったと思います。収録は半日使うのですが、それを編集してテレビで放送できるようにまとめたというのは、すごいなと思いま



す。個人的には紫波を推していたのですが、クオリティーが高いのは盛岡市だったということで個人的には残念でした。何回か出させて頂いて思ったのですが、差が出ているなと思うのは仕方なく参加しているところと、楽しんで参加しているところが、わかるようになってきました。行政が作ったところとプロが作ったものも差があって、ルールがあればいいのかなと思いました。今回は学生が作って「CM甲子園」とか。あとは審査員席が狭いな、と。すごく暑かったです。テレビを視聴してあまり文句はないのですが、たまにフェイスブックでは市町村の方々が「もっと出たかったです」という意見もありました。「なんで2時間番組じゃないのですか」とか。参加している人たちはもっと楽しんで長めに番組編集をしてほしいな、という意見がありました。また、審査員をやりたいなと思いました。

小松委員)

私の見た感想ですが、15秒という限られた時間、掛ける27とか28市町村という限られた時間が大前提としてある。そして一つの番組の放送時間引くその時間がある、審査員の意見やそれ以外の部分を放送しなければならない。そうすると、どうしてもぎゅうぎゅう詰めの感じで、結構バチバチ切れているところが多いのかなと思いつつ、しょうがないのかなと思いました。東北の系列局以外の地方、他県の共通点がよく分かりません。どのように選んでいるのですか？

長生取締役)

系列局で「ふるさとCM大賞」という番組をやっているところで交換しているのです。

辻専務)

もっとやりたいのですが、お互いにその都道府県に出すという意向に意義を感じるところがやっているので、九州だったり四国だったりバラバラになっています。

小松委員)

なるほど。あと客席を映したときの、手前の辺りの空席が気になりました。寂しい感じが若干しました。嘘でもいいから誰かいてくれたらよかったのではないかなと思いました。

マギー審司さんの司会自体は問題ないと思うのですが、持ちネタのしいたけで、「でっかくなっちゃった」と言ったときに嘘でも拍手とか笑い声があればよかったのですが、そのままスルーしちゃったので、見ている方としては「あれっ」と思いました。あとは個人的には大船渡のさんまと

か、釜石の高校生が作ったCMがシンプルでわかりやすく、心に訴えるものがありました。花巻のCMで「歩いて車でも」というくだりがありましたが、新幹線が映ったときに「こまち」だったので、そこは「はやて」か「はやぶさ」だろう、と思いました。あと審査員の方の審査をする前に、「そりゃ揉めますよねー」というようなフリがあったので、その理由があとで分かるのかな、と思っていたのですが、説明がなかったで、そこは聞きたかったです。全体的に15秒の中でインパクトを重視するところと、ストーリーを重視するところ、上手にプロっぽく撮るというところで分かれたな、と思いました。個人的には高校生とか中学生が作った手作り感のする方が交換持てると思います。盛岡市が作ったのはものすごく上手で、当然かなと思いました。感想です。

菊池委員)

10月11月は出席できなくて、12月は開催がありませんでしたので、久しぶりの参加です。今年もよろしく願います。

番組自体は知っていましたが、見たのは今回が初めてでした。番組の変遷過程は分からないのですが、話させて頂きます。副賞について、大賞が365本のCMが流れるというのは、一般的に出したくても出せないものですから、市町村からすると非常に魅力だろうと思います。その結果が33市町村中で28市町村が参加したと。沿岸とか北部のあたり、住田・大槌・岩泉・田野畑・九戸あたりは不参加だったのだなと思いました、いずれ非常に参加率は高いな、魅力があるなと思いました。それで今回28本のCMが次から次に出てきて、正直言って最初は見ていましたが、だんだん物足りないものが出てきたりすると、真剣に見るのが難しくなることもありました。放送順はあいうえお順になっているようですね。だからあいうえお順の後半の市町村はいつも後半なのかなと思いました。仮に昨年優勝、賞を取ったところがシード権をもって、「この辺がレベルの高い市町村ですよ」という状況が後半に持ってきてもいいですし、そういったものがあってもいいかと思いました。制作者というのがどういう人たちなのかな、役所の人たちなのかな、というのは気になりました。市町村にとってはCM大賞への参加が、一番イメージアップにつながる手っ取り早い方法なのだと思います。それから、番組の放送回数もう11回目ということで、継続してやることで、それぞれのレベル向上につながって、レベルも上がってきているのだろうと思いますので、これはぜひ継続してほしいで

す。他局には入り込めない番組だと思いますので、岩手朝日テレビできちっと楽しい番組にして魅力あるものにしてほしいと思います。CMの中身だけではなく、現場の作成現場、裏舞台が出ていまして、そこが番組構成で味付けできるところだと思います。特に賞には入りませんでした。二戸の短角牛のひっぱられるシーン、危険と背中合わせでやっているのはびっくりしました。こういう味付けがあるといいなと思いました。子供たちが作った普代村のCMでは、子供たちの撮影風景がもっと出てくればいいと思いました。盛岡は最後の方でしたが、見た瞬間に「出来ているな」、という感じがしました。自分が全体的に予想していたものは、最初の特別賞にバタバタと決まっていたのですが、だいたい決まっていた。審査員の方々は大変だなと思いました。審査員とそれぞれの方々とのコメント、掛け合いを含めた部分は良かったと思います。

大見山委員)

全般的の印象は非常にほのぼのしているし、番組のテンポも飽きさせないし、ダイジェストの仕方が非常に良かったのではないのでしょうか。定番番組としてこれから毎回見たいと思いました。番組の面白さに安定感があって、それがひしひしと感じられました。定番番組の継続性について、山本監督を審査員に持ってきたのは出色ではないかなと思いました。前回、山本監督もお疲れだよ、とボロクソいいましたが、審査員としてはパーフェクトじゃないかな。継続性から言ってもいい配置をしたのではないかと思います。最後の山本監督のコメント「これからはコピーじゃないのだよ」これは印象づけられました。個々の作品については、今回特に特別賞が面白かったのではないのでしょうか。すごくバラエティーに富んだ作品構成になっているのが私の面白かった、という感想につながっていたのかなと思います。普代村の子どもの素朴さ。紫波の蕎麦をズズッとすするところ、あのやり取りはたまらないですね。それからなぜか西和賀が力強く、冬といったシーンは雪を捨てるシーン、これは開き直りみたいところで、特別賞は非常に頭に残りました。

これから継続性というところで発展していくのか期待を感じました。気になる点では、マギー審司と畑山さんの駆け引きについて安定感はありませんでしたが、マギー審司はバラエティー色をもう少し出してもいいかなと思いました。来年もやってもらえらるともう少し慣れるのかと。畑山さんももう少しポテンシャルがあるのではないかと、彼女の得意技の食べっぷりでいえば、例えば、しいたけを食べてもらう

とかいろんな得意技を彼女は持っているので、司会者に対しては来年も同じメンバーでやるとすごく嬉しいです。それから会場のにぎわいについて、表情がみなさん固いということ、服装も役所の方ということもあって背広姿だったり。もうちょっと工夫があるのではないかと。会場の盛り上げを期待したいです。それから審査員の方々も面白かったのですが、役人っぽい方が出るとしらけるというか。ここは割り切ってエンターテインメント性でコメントできる人で揃えてしまってもいいのかなと。あまり堅い人がでると表情も固くなるので、もうちょっとバラエティーに踏み込む構成でもよかったのではないかと、修正すべきかな、と思いました。

村田委員長)

ありがとうございました。概ね好評だったようです。参加が28市町村というのは、感謝すべきであって、悪い数字ではないと思います。でも出来れば「今年は全市町村の参加ですよ」という声を聞きたいという気持ちはあります。それから山本晋也さんが審査委員長になりました。ユーモアもあるしコメントも映像に対する的確な批評もありますし、好感が持てました。逆にマギー審司と畑山アナウンサーの進行ぶりですが、大人しすぎというか、もうすこし盛り上げてよかったですのではないのでしょうか。どうも二人の影が薄くなっちゃって、出演者の話を引き出したり、場を盛り上げるような、会話をやってほしかった。ちょっと大人しすぎたな、と。無難は無難なのですが、マギー審司のキャラからいうと期待していたのですが、意外に静かな進行でした。せっかくの起用ですから、いいふざけ方をしてほしかったなと思います。

それから、全体的にCMにレベルは上がっている気がします。上がっている、というのは「これはもしかしたらプロの息がかかっているのかな」というのが結構ありました。それが良いとか悪いということではないのですが、そのへんが審査員には難しい判断だと思います。その難しさ、審査の過程の話をもうちょっと聞きたいなと思っても意外と審査員は口が堅いようで、この辺もうちょっと打明けてもいいのではないかと。「ここ難しかったのですよ」、「ここみんな意見が割れました」、とか。ちょっとだけでもコメントがあると見る側も「やっぱりそうだろうな」と。おそらく見る側も審査員と同じように点数つけている方もいると思います。ここは「いい」とか「悪い」とか。そういう面を考えると審査員の打明け話をちょっと出して欲しかったです。この番組の良さというのは、裏の制作段階の涙ぐまし

い苦労話やアクシデントが出ていて、「裏話賞」をあげたいシーンがありました。かえってコマーシャルよりこっちが面白いなあというのが目につきました。それからどなたかおっしゃいましたが、二戸での撮影で手綱を持ったスタッフが牛に引っ張られるシーン。見ていて怖いですね。そういうのが何カ所かみられました。ああいう撮影風景が逆に市町村のPRになっていると思います。それがまたコマーシャルを面白くする一つのわさびのような裏話はこれからも取ってほしいなあ。逆に本当に失敗した、とかそういうところをピックアップすれば見る側も苦労してるんだな、と面白く感じる事が出来ます。制作の段階で子どもや高校生のはつらつとした動きがポイントを与えているのですが、そのださんも言いましたように、高校生のみのコマーシャル大賞とか、小学生から高校生までの、大人が入らないのも入れてもいいのではないかと思いました。村全体でやっているのは、コマーシャル作りのひとつのポイントですが、逆にそういう子供たちを裏で町の方々がサポートをする、そういう風景を入れながらのコマーシャル大賞も目先が変わったことでやってもいいのではないのでしょうか。ある面では難しさも、学生ですから勉強もあるでしょうし、なかなか引っ張り出すのも難しいでしょうけれども、いままで見ていて子供たちの力っていうのは強い。感動する。それだけ一生懸命やっているのではありません。角度を変えた作り方で子どもたちをメインにしたものを作れないか、と。賞に関しては、予想とほとんど外れましたが、盛岡の冷麺はプロの感覚になりますよね。あれを企画した人は結構それ相応の知識なりアイデアを持った人だと思いますが、ああいうのもまた大賞としては受け入れることはできますが、そればかりでも困るなど。素朴で単純でバカ丸出しというのも賞をやってもいいのでは、という気持ちです。チェックしましたが、今回は全く外れてしまいました。審査の結果であります。これは続けるべきであって、どういう形でも継続することを切に願います。全市町村の参加も楽しみにしています。以上です。

なにか言い足りないことはありませんでしたか？今日はディレクターの方もいらしているので質問があればどうぞ。

佐々木  
報道制作局長)

貴重なご意見本当にありがとうございました。マギー審司の起用についてはみなさん概ね好評化いただきまして、私は胸をなで下ろしているところです。山本監督が司会を10年やってきて、年齢的に高齢になり、収録時間も長くな

ってきたとか、話も脱線したり、いろんな状況がある中で、もうちょっと番組を軽くみられるようにしたいところがあって、マギー審司を起用させていただきました。とりあえず、皆様の評価をいただけたのはほっとしているところです。いくつか指摘いただいて、今後気を付けていきたいなと思うのは、会場内に空席がみられるということについて、会場の賑わいの演出する仕組みについて、もう少し検討する余地があるのかなと。それから、役所の方はどうしてもネクタイ姿でくるのですがそれを「平服で来てください」と予めコーションして、ふつうの恰好でお祭りに参加するような気持ちで来てくれ、というオファーの仕方もあるだろうと。そういう工夫もあってもいいなと思いました。それから50音順の件ですが、これは毎年テレコでして去年は下の方から、次は上の方からと。なんでそうなったのかは私も経緯はわかりませんが、委員の方々もおっしゃっているように、去年のディフェンディングチャンピオンから始まるとか「去年どうだったっけ、今年はどんなものを作ってきたのかな」みたいな、妙に公平にするとかコンテストなので順番によって、最後は飽きて見てもらえないのではないかという配慮があったと思います、そこは番組の演出としてディフェンディングチャンピオンが最初にできたり、連覇を成し遂げたチームから出てくるとか、そういう風にうまい具合に引き付けられるように演出ができるように僕の中では考えていますし、次回担当者にも引き継ぎたいと思います。

伊波  
報道制作部長)

貴重なご意見ありがとうございます。先程から指摘された部分は番組を作るうえで必要な事と、あとはイベントという側面もありますので合わせもって全体で連携して対応して、もっと楽しいお祭り感が出せるように今後していきたいと思います。あとは、CM作品を15秒にしたことで、以前は番組を90分枠で放送していましたが、今回は55分で対応しましたので、そこの兼ね合いというのも、私たちがまだまだ試行錯誤している段階というのが正直なところです。今回審査員のコメントが切れているイメージがあったとご指摘いただきました。確かに番組を編集していて悩ましくて、最終的に苦しんでそうなった経緯もあるので、今後はどういう長さで伝えていくのが見ている人にとって一番楽しく見られるか工夫していきたいと思いました。

マギー審司さんはお隣の宮城県の出身で、震災後の沿岸

のエリアに入ってたくさんの活動をしていただいている方です。おそらく市町村の想いもある程度分かっている、「ふるさとCM大賞」に携わっていただける最適な方ではないかということで司会をお願いしたところ、本人も事務所の方も快く受けていただき、本当に大きな成果を得られたかなという手ごたえを感じております。来年のスケジュールは押えました。

佐々木  
報道制作局長)

今回マギー審司と畑山アナウンサーがお見合いしちゃった部分があります。というのは、時間がなくてリハーサルとか事前の台本の確認はしたものの、お互いのキャラを確認しあう時間がありませんでした。

伊波  
報道制作部長)

畑山アナウンサーもどこまで自分を出しながらやるのかというのも、当日の短い打ち合わせでやったので、分からないままだったと思います。

佐々木  
報道制作局長)

マギーさんもどのぐらいいいじっていいのか、手探りでやって遠慮しながらやった部分もあって、それが多分みなさんが見て「んー、もうちょっと突っ込んでもいいのにな」と思われたのだと思います。前が山本晋也さんだったから、そのギャップがあったと思います。山本晋也さんの司会というのはある種の独壇場ですから、そこからマギー審司さんと畑山アナウンサーとなると、やはりちょっと見る側は大人しいかなという感じがしたというか。

伊波  
報道制作部長)

そんな中、弊社の畑山アナも頑張ってくれましたし、マギーさんも短い時間で一生懸命取り組んでくださいました。来年あの組み合わせがもっと何か新しいものを生み出すのを、私も期待して次のCM大賞がどんな審査会になるのか楽しみにしています。みなさんのご意見を生かしながら楽しいお祭り感が出せるようにしたいと思います。

佐々木  
報道制作局長)

マギーさんも「これは面白い番組だから子どもがもっと出るといいんだよねー」と仰ってました。

村田委員長) 会場に参加している方々というのはほとんど市町村の関係者なのですか？

佐々木  
報道制作局長) 今回一般観覧も受けてどの程度来たのですか？

柏葉事務局長) 10通です。

村田委員長) たった10名？そこだよ。以前、会場で何かイベントらしく市町村の名産物を並べたり、食べるまではいかなくても何かPR「この市町村はこういうのがあるんだよね」、ちょっと売ってもいいようなものを並べたらいいのではないかという案が出た覚えがあるのだけれど、一般の方々が行きたくなるようなそういうアイデアがないでしょうか。

そのだ委員) CM作品を子どもに作らせて、後ろに親並べておけば満席になりますよね。年齢制限、「18R」じゃないですけど、その下みたいな。

佐々木  
報道制作局長) 結構題材として子どもがCMに出てくるシーンって多いのですが、その子たちが会場での収録の時に来ていただけているケースは多くないのです、昨年場合は。それをマギー審司さんは「もっと来るともっと楽しいのにな」と仰いましたね。

村田委員長) そうだよ、マギーさんは子どもが好きだからね。ああいう場面があれば盛り上がると思いますよね。  
特別賞はいっぱいあるのですが、撮影の「裏話賞」みたいな作れないのかな。自分たちが苦勞して撮影したものに対して、そんなに大きくなっていいから、何か。

佐々木  
報道制作局長) 我々も生真面目なものですから、自分たちで市町村をチョイスして取材に出かけているわけです。そうするとある程度あたりを付けていくわけです。

古馬ディレクター) ロケ日をみなさんからお聞きするのですが「まだ決まっていません」というのが結構あるんです。前日にお酒を飲んで盛り上がって、いきなり明日やる、というところもあったりして。それに対応できなかつたりして。



佐々木  
報道制作局長)

結局こちらでチョイスしている関係上、なんとなくこっ  
ちの都合で取材してメイキングを作ってそれに対して賞を  
あげるといのは、若干他の人たちに比べて不公平感がある  
のではないかというところで、踏み出せないでいます。ま  
ったく賞とは別な意味での何か、CMを何本だすかという  
コンテストとは別の賞として出すのは出来ると思います。

村田委員長)

もちろん、映像の長さに関係なく「ご苦労さん賞」みた  
いな。ほんとに裏話の撮影現場というのは面白かったです。

そのだ委員)

15秒CMで90分番組は作れませんか？

伊波  
報道制作部長)

調整して、やることは可能だと思います。

そのだ委員)

CMが短くなったから番組が短くなるというよりも、何  
かもっと入れどころがあるから90分番組にしてほしいな。

伊波  
報道制作部長)

以前と番組の作りを大きく変えていますので、検討すれ  
ば可能だと思います。関係部署と一緒に検討したいと思  
います。

佐々木  
報道制作局長)

私たちだけでは決められないので編成業務部と相談して  
やっていきます。CM作品を15秒にしたので、まずはちょ  
っと短い55分でやってみようかという数年前からの意見  
でした。

そのだ委員)

ゴエティーはステージに出さないのかな、賞状を持って  
くる係とか。市町村からはいろんな着ぐるみが会場に来て  
いましたよね。朝日テレビも負けてほしくない。

佐々木  
報道制作局長)

それはその通りですね。ゆるキャラ大会みたいな雰囲気  
も出てきますからね。賞状を持ってくる女性社員の代わり  
にゴエティーが出てくるとか。

村田委員長)

これから長く続けたい番組ですから、楽しい雰囲気でやり  
たいですね。

そのだ委員) 審査員の審査のシーンもふつうに真面目なので、たまに言い争っているシーンとか、書類を投げつけているとか、山本監督の胸ぐらを掴むシーンとか、「すごい大変だったんだよ」というのを表現してもいいのではないのでしょうか。

村田委員長) そういうのをちょっと入れれば見る側は「あー苦勞してるんだな」というのが取って説明しなくても分かるから。いろいろと工夫ができるのではないかと思います。

佐々木  
報道制作局長) 番組の後半の表彰で、もうちょっとひとひねりが出来ないかなと思います。

村田委員長) 話は尽きませんが、古馬さんのほうから何かありませんか？

古馬ディレクター) 昨年から番組を担当させていただきまして2回目になりますけれども、昨年から委員長がおっしゃっている「舞台裏」というのを重視しています。各市町村にお願いして私が取材に出向いたり、行けないところは各市町村のみなさんをお願いして、裏側を撮って送ってください、とお願いしました。昨年は11くらいの市町村からメイキングを取ってもらい、今年は8割方裏側を取ってもらって動画だったり写真だったりしたのですが、結構理解していただいていると思います。ふつう、一般の行政の方ですとカメラ一台用意するのも大変だと思うのですが、それを二台、三台用意してもらって、撮影の裏側を撮影してもらいました。逆にかえって自分の首を絞めました。審査会で3時間半、メイキングだけで5時間ぐらいの素材が集まり、これを55分、正味46分半にどうやって入れようかというところが大変でした。CM作品の15秒だけでは伝えられないところを伝えられたのかなと思っています。

考え方として放送ありきというよりは、審査会・イベントありきで楽しんでいただいたのを、放送に乗っけてあげた方がスムーズかなと思います。イベントに来ていただいた方にはイベントを楽しんでもらう、放送を見ていただいた方には放送を楽しんでもらうという形で出来ればなと思います。イベントを面白くしようと思うと、収録時間が4時間5時間になると見ている人たちも大変になるので、兼ね合いが難しいと思いました。CMの裏側に関して、メイキングの映像を頂いているので審査会場で流すことは可能

ではあるのですが、出していない市町村もあるということと、それによって評価が違ったものになると「大賞」とか「特別賞」とか決めることに影響しているのか。ということもあり審査会ではそのあたりには触れないでいるのですが、何かいい方法があればもうちょっと違ったように出来るのかなと思います。空席に関しては、次の登壇の準備をしておいて、その間座席が空いてしまうという事情があります。なんとか映さない努力はしましたが、なかなかうまくいかず申し訳なかったと思います。

本音を言うと、面白いシーンがもっとあったと思うのですが、放送時間や番組の流れの関係で、個人的には7~8割で終わっちゃったかな、という気持ちは個人的にあります。評価いただき嬉しく思います、ありがとうございました。

村田委員長)                   それでは次回開催についてお願いします。

柏葉事務局長)                次回について説明いたします。次回の番組審議会は2月27日木曜日午前11時から、弊社の3階大会議室での開催となります。合評課題は2月6日木曜日18:15分から放送します「スーパーJチャンネルいわて」を合評課題とさせていただきます。木曜日、金曜日を担当しておりますMC塚本アナウンサー、藤原アナウンサーの「スーパーJチャンネルいわて」を是非ご覧になっての貴重なご意見をよろしくお願いいたします。なお、番組では小岩井雪まつりの中継も予定しておりますので宜しくお願いいたします。

村田委員長)                その他、なにか質問なり意見はございませんでしょうか。なければ番組審議会を終了します。

7. 審議機関の答申または改善意見に対して措置  
ご指摘頂いた点を、今後の番組作りの参考とすることとした。
8. 審議機関の答申または意見の概要の公表  
朝日新聞岩手県版に審議概要を掲載。  
系列各局に議事録を送付。  
本社受付に議事録を常備、閲覧に供す。  
インターネットホームページに掲載。
9. その他の参考事項
10. 配布資料
  - ◎ 2月単発番組編成予定表
  - ◎ 1月岩手地区視聴率